

## 大阪女学院中学校・高等学校

2012年度学校評価(自己評価)

2013年度学校関係者評価

2013年10月25日

大阪女学院中学校・高等学校 学校評価委員会

大阪女学院中学校・高等学校 学校関係者評価委員会

### 2012年度自己評価に基づく2013年度課題の成果について

【課題】学校自己評価の結果より、キリスト教教育をはじめ、解放(人権)教育、行事、クラブ活動、生活・進路指導、国際教育等については、本校の教育理念に基づいて、信じることをこれからも自信をもって生徒に教育していきたいと考えます。授業については、塾等での個別指導を受けてきた生徒たちが増え、さまざまな場面で映像による情報伝達が当たり前になり、ことばの力が弱まる傾向にある現代にあって、既に手がけている少人数制や習熟度別クラスのみならず、すべての教科における授業内容の精査、教授法への工夫が改めて必要であることを痛感させられます。

今年度、各教科で、また教科をこえてテーマを共有し、系統立てた学習や基本的な学習の習慣づけのための訓練が必須であると考えています。中学1～3年生の毎週土曜の自主学習時間に加えて、中1には「OJ Diary」を用いて、学習・生活スケジュールの自己管理の指導をはじめます。また、高校3年生の国公立センター、二次、私大一般、各入試対策のため、12月以降のサポート体制を強化しようと考えています。

新指導要領の中学校 2012年度完全実施、高等学校 2013年度より順次実施に伴う本校カリキュラムの改訂に続いて、2012年度から全教科でスタートしたシラバスの作成だが、2014年度に向けて完成させ、その後随時改善しようと考えている。これまでの教科指導を見直し、生徒の現状、時代状況を加味して、大阪女学院らしいシラバスを作成していきたい。

中学生のスケジュール管理指導の改善のため、「OJ Diary」を改訂し、指導を継続していくことはもとより、2学期からは、高校3年生の進路決定者によるビッグシスター制度 - 中1・中2の要支援生徒への高3生徒による個別指導 - が始まり、当該生徒たちのモチベーションアップに役立っている。また、3学期には高3生徒の受験直前指導を強化するため、具体的に準備を進めている。

### 2012年度学校評価(自己評価)及び2013年度学校関係者評価

【学校評価(自己評価)について】(大阪女学院中学校・高等学校 学校評価委員会)

学校評価は2008年度に始まり、今年で5年目を迎えます。2008年、2011年度と3年ごとに詳細なアンケートを実施し、間の2年間はアンケート項目を減らして、生徒の意識推移を追う形で行ってきました。今年も、この結果を基に本年度の自己評価、分析を行いたいと考えます。

また、すべての教科について、授業アンケートを、5項目(2008年度は4項目)について継続して実施しています。本評価では、すべての教科の合計を中学校、高等学校ごとにまとめたものをもとに、教科学習の評価を行いました。

グラフに記されているパーセントは、質問に対する肯定的回答を合計した値を示しています。

【学校関係者評価について】(大阪女学院中学校・高等学校 学校関係者評価委員会)

2012年度に実施された学校評価(自己評価)を受け、下記のように学校関係者評価委員会を組織し、学校関係者評価を行いました。

(1)学校関係者評価委員会

学識経験者 1名 (委員長)

本校保護者代表 2名

本校同窓会代表 2名

陪席 中学校・高等学校 校長、副校長、中学校教頭、高等学校教頭、

(2)学校関係者評価委員会 委員長 学識経験者 有澤慎一氏(日本キリスト教団八尾東教会牧師)

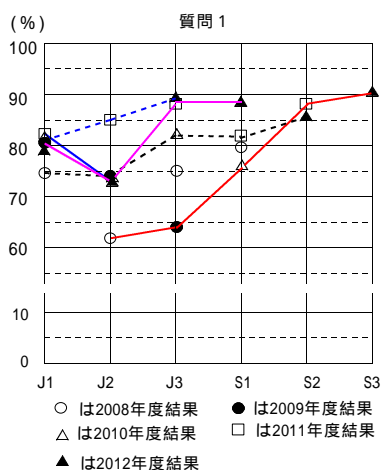
## (A)キリスト教教育、解放(人権)教育による人間教育

### 自己評価

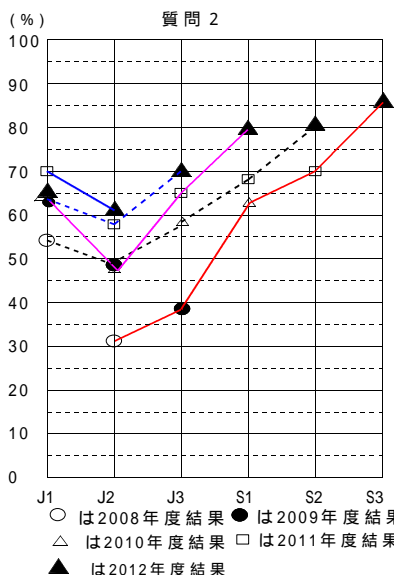
(質問1)「本校はキリスト教主義の学校として、礼拝や宗教行事等の様々な機会を通して、『すべてのものは、それ自身で存在しているのではなく、神様によって創造されて存在していること』『あなたを含め、人間一人ひとりが、神様にとって大切な存在として愛されていること』を皆さんに伝えようとしています。そのような学校の方針を理解していると思いますか。」

(質問2)「朝の礼拝(チャペル・クラス)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。」(質問3)「宗教行事(修養会・伝道週間・訪問行事等)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。」

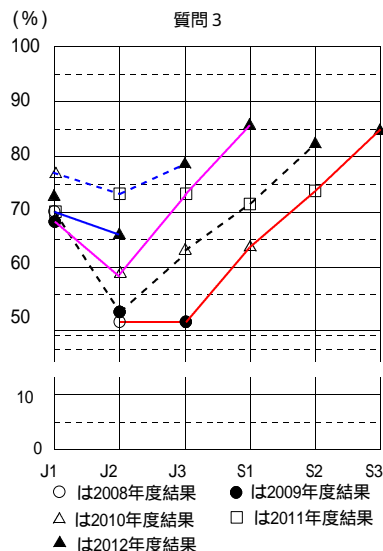
2008年度の中学2年生の宗教教育についての肯定的回答の低さが大変懸念されておりましたが、4年目までに急カーブで回復、高校3年生となった今年度には、さらに肯定的な回答が増えました。この学年ほど極端ではありませんが、思春期のある時期(特に中2)には、キリスト教、解放(人権)についての学習を、素直に受け止められない時期がどの学年にもありますが、学校として信じる真実を語り、取り組みを継続していく中で、やがて重要なことが伝わることを実感します。また、年々、中2での落ち込みのカーブが緩やかになっています。生徒たちが、大人や社会に反発し、批判的に物事を見るという傾向が、よい意味でも悪い意味でも弱くなっているようです。生徒は、大人の期待に応え、できるだけ対立を避け、円満な人間関係の中で学びたいと願っているのではないかと推測されます。



質問1. 本校はキリスト教主義の学校として、礼拝や宗教行事等の様々な機会を通して、「すべてのものは、それ自身で存在しているのではなく、神様によって創造されて存在していること」「あなたを含め、人間一人ひとりが、神様にとって大切な存在として愛されていること」を皆さんに伝えようとしています。そのような学校の方針を理解していますか。



質問2. 朝の礼拝(チャペル・クラス)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。



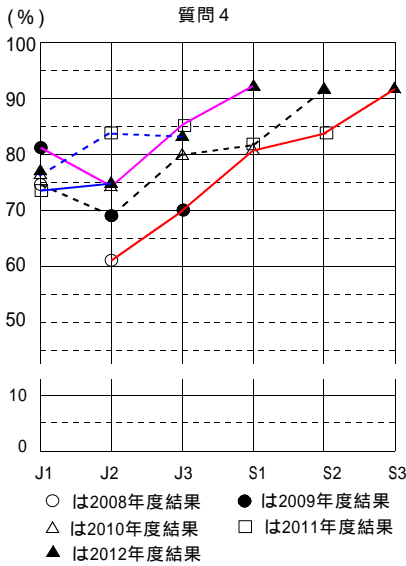
質問3. 宗教行事(修養会・伝道週間・訪問行事等)によって、自分の生き方や他者との関わりかたについての考えが深められていると思いますか。

(質問4)「本校の解放(人権)教育は『人権を尊重(自分を生かし、他の人を生かすこと)できる人間の育成』を目的として行われています。自分は本校の解放(人権)教育について理解していると思いますか。」

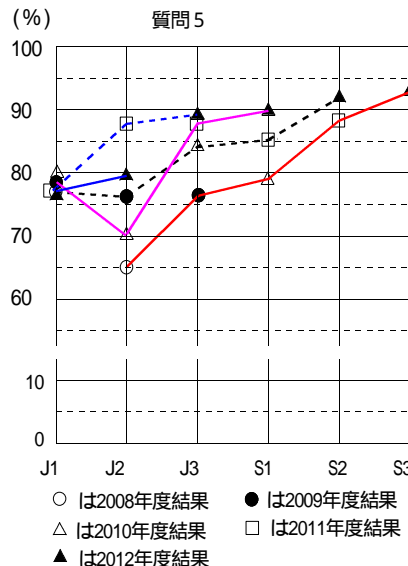
(質問5)「あなたは、お互いの個性を尊重し、違いを認め合うことができるようになったと思いますか。」

(質問6)「学年の解放(人権)HRを中心に行われた解放(人権)教育のテーマを通して、知識と人権感覚が身についたと思いますか。」

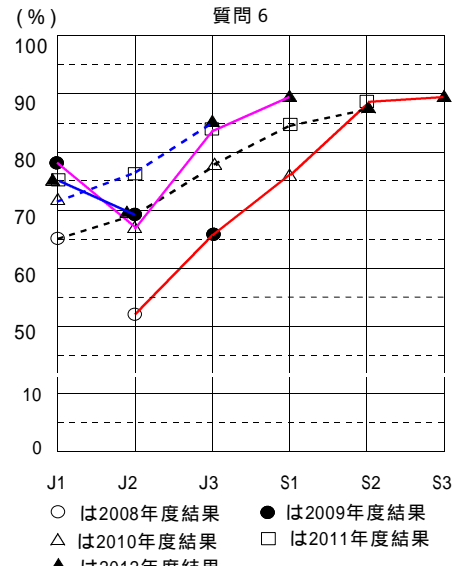
人権教育についてもキリスト教教育の推移と同様の傾向が見られますが、2010年度中学入学生(現中3)は、どの質問に対しても、中2での落ち込みがなく、緩やかな上昇または現状維持のカーブを描いています。これまでになかったカーブであり、高校での推移を見守りたいと思います。



質問4. 本校の解放(人権)教育は「人権を尊重(自分を生かし、他の人を生かすこと)できる人間の育成」を目的として行われています。そのことをどの程度理解していますか。



質問5. あなたは、お互いの個性を尊重し、違いを認め合うことができるようになったと思いますか。



質問6. 学年の解放HRを中心に行われた解放(人権)教育のテーマを通して、知識と人権感覚が身についたと思いますか。

## 学校関係者評価

自己評価の分析にあるように、最近の子どもたちが大人との関係において対立を避ける傾向にあるというのは驚きである。子どもたちが大人に認められ、信頼されていると感じていて対立の必要を感じていないのならばよいが、単に大人とぶつかってまで本心を言いたくないという状態であるなら心配である。大人自身の子どもとの関わり方が変わってきているのかもしれない。

人権教育について、生徒たちの自己評価が高いことはよいことだが、「いじめ」や「公共マナー」など現実の生活や人間関係に結びつく形で成果を上げているかが問われなければならない。批判的な視点やリテラシーの意識も育ててもらいたい。そのような点について、生徒たちの自己分析や自己批判、互いの意見交換を含めて、課題に深く切り込んでいく教育を期待する。

また、ゲストスピーカーから話を聞く機会の多いこの学校の環境は恵まれているが、自分自身が行動し、また自分の考えを正しく表現していく機会を大切にしてもらいたい。たとえば、公立中高で広く行われている職業体験(インターンシップ)などの取り組みを参考にしようか。

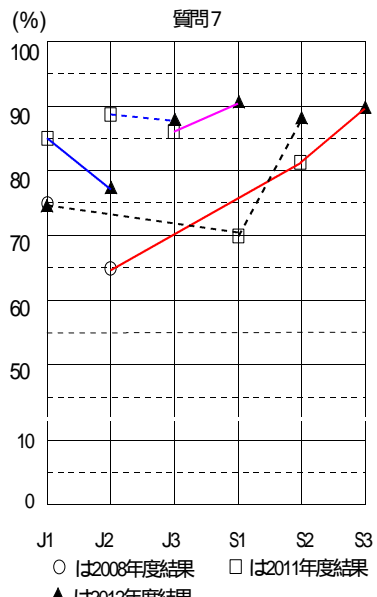
## 自己評価

(B)行事、生活指導、進路指導等を通じてよりよい人間関係を構築する

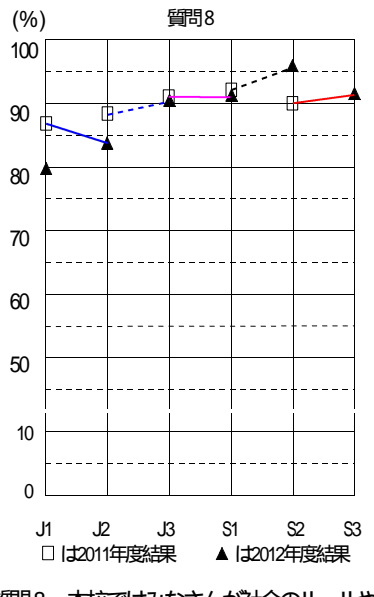
大阪女学院中高はここ数年、のびのびとした校風は大切にしながらも、基本的な生活習慣の確立、他者に対するマナー、学生としての身だしなみ等の指導に取り組んできました。さらに、2011年度からは「あいさつ運動」、登校指導にも取り組み、教員が輪番を組み、立ち番指導を続けています。

(質問7)「本校の生活指導において大切にしている「自由」-「自己中心的な自由」ではなく「本当の自由」-について、自分は理解していると思いますか。」この質問は、は2008年度2011年度に「本校の生活指導については、十分に理解していますか」という問い方で行い、今年度は同じ内容を、上記文面のように少し丁寧な問い方で行いました。今年の高校1年生～3年生の肯定的数値は、以前の低い数値から上昇して90%に近づいています。中学1・2年生の去年から今年の推移は、80～90%の高い数値ではありますが、やや下降気みです。中学生にとっては、質問のし方が抽象的、限定的になり、難しくなったためではないかと考えられます。

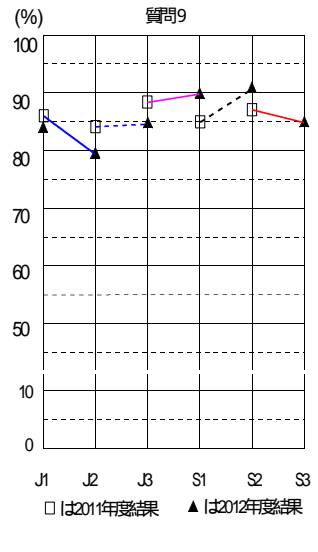
(質問8)「本校ではみなさんが社会のルールや公共のマナーを身につけることを大切にしていますが、自分はそれができていると思いますか。」(質問9)「本校では、学校での基本的な生活習慣(遅刻、片づけ、身だしなみなど)を大切にしています。自分にはそれができていると思いますか。」は2011年度から加えた質問項目ですが、中1・中2が80%前後、中3以上の学年は90%以上がマナーを大切にできていると答えています。これは、中学1・2年生が、今年度の自分自身を振り返って、できていない部分に気づき、正直に答えた結果とも考えられます。発達段階から考えても、まだまだ周囲に目を配り、自分の行動をコントロールできないでいるのが、中1・2年生の一部の現実と思われます。一方、基本的な生活習慣については中学、高校に関係なく、80~90%の幅でばらつきが見られます。周りには一定の配慮ができるようになって、自分自身の生活を律することは、年齢に関係なく難しい部分があるということでしょう。



質問7.本校の生活指導については、十分に理解していますか。



質問8.本校ではみなさんが社会のルールや公共のマナーを身につけることを大切にしていますが、自分はどの程度出来ていると思いますか。



質問9.本校では、学校での基本的な生活習慣(遅刻、片づけ、身だしなみなど)を大切にしています。みなさんは自分でどの程度出来ていると思いますか。

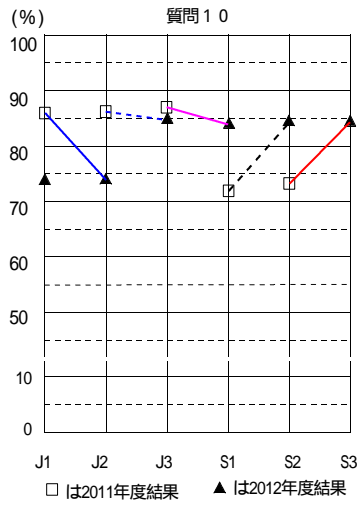
(質問10)「本校では、『心に届くコミュニケーション』を目標としてあいさつ運動を行っていますが、自分はそれに取り組んでいると思いますか。」

では中学3年生以上の学年は80%を超える生徒が、肯定的な回答をしています。昨年度はどの学年も70%台だった項目ですので、取り組みが少しずつ成果を上げていると言えます。しかし、一方で、中1・2はどちらも73%台と、上の学年より約10ポイント低く、取り組みに対して、主体的に受け止められていない嫌いがあります。これからも、呼びかけ、取り組みを続けていきたいものです。

本校の生徒会行事・学年行事が生徒達に大きな喜びと一体感、自信を与えていることは、一つ一つの行事を直接見ればよく分かることですが、生徒たちはどのように感じているのでしょうか。

(質問11)「本校では、生徒会主催の体育大会・文化祭が活発に行われていますが、生徒同士の関わりを深めることに有意義であると思いますか。」

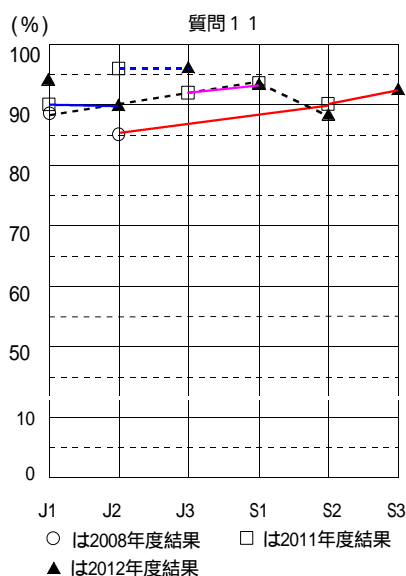
(質問12)「学年が実施主体となって行われる修学旅行、スキー学習(中1)、合唱祭、水泳大会等の学校行事は、友達との関わりを深め、クラスの一体感を強めることに有意義であると思いますか。」の質問について文化祭、体育祭と学年主



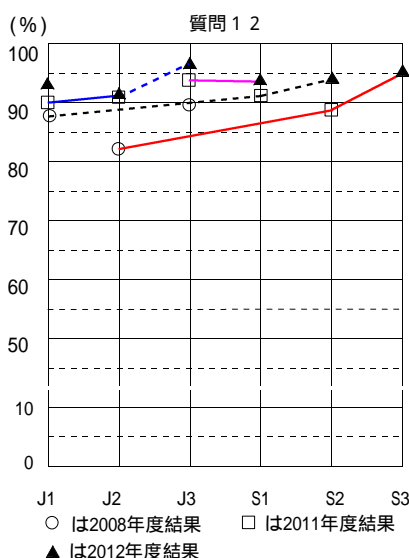
質問10.本校では、「心に届くコミュニケーション」を目標としてあいさつ運動を行っていますが、その取り組みはよいと思いますか。

体の行事について、いずれも90%以上の生徒が有意義であると認めています。また、学年行事については、どの学年も学年が上がるごとに少しずつ有意義であると感じる数が増加する傾向があり、学校生活をともに過ごす中で、親しく、学年が一体感を増していく様子わかります。

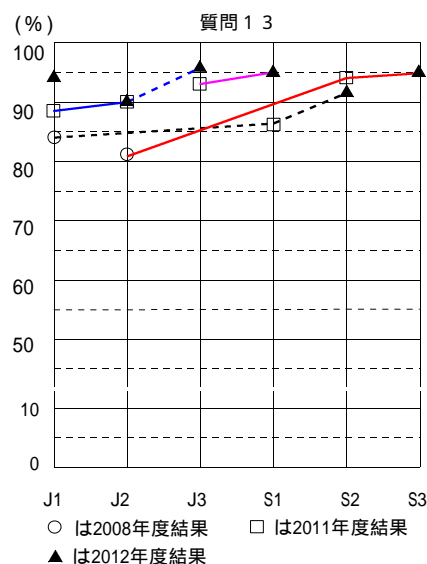
(質問13)「あなたにとっての学校生活は、楽しく充実していると思いますか。」についての今年度の回答は実に90%以上が肯定的回答であり、2008年度学校評価アンケートを行った当初80%台であった頃から、生徒の充実感は少しずつ増しているという結果になっている。授業や礼拝、行事等、すべてのプログラムの中で育まれる「学校生活が楽しく、充実している」という実感は、本校の教育のかけがえのない大切な成果であると考えています。



質問11. 本校では、生徒会主催の体育大会・文化祭が活発に行われていますが、生徒同士の関わりを深めることに有意義であると思いますか。

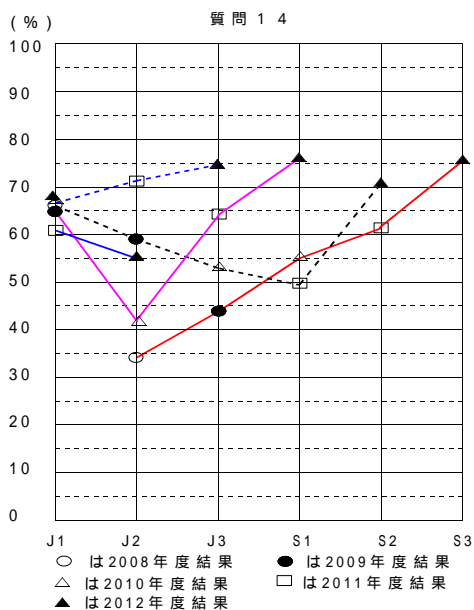


質問12. 学年が実施主体となって行われる修学旅行、スキー学習(中1)、合唱祭、水泳大会等の学校行事は、友達との関わりを深め、クラスの一体感を強めることに有意義であると思いますか。

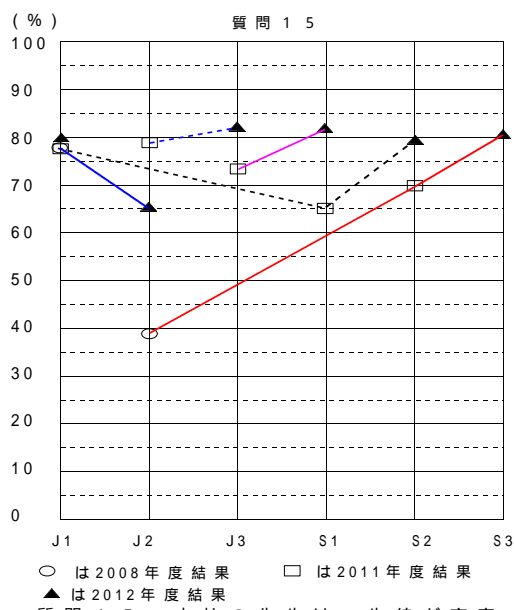


質問13. あなたにとっての学校生活は、楽しく充実していると思いますか。

(質問14)「本校の先生は、生徒の悩みの相談によくのってくれていると思いますか。」の質問は5年間連続の質問で、(質問15)「本校の先生は、生徒が充実した学校生活を送れるよう心がけて指導していると思いますか。」は2008年度・2011年度、2012年度に行った調査ですが、いずれについても、グラフは他の質問の回答とはかなり違ったカーブを描いています。6学年の最高値が76%、学年によるバラツキもかなり大きくなっています。ただ、中学から高校に進むにつれて肯定的回答率は確実に上昇し、70%を超えてくることから、生徒と教師の信頼関係が、年を重ねるごとに深まっていくことがわかります。2008年度にとった生活指導関係の別のアンケートでは、生徒の相談相手は、友人(中学生については両親の数字も高い)であり、まただれにも相談しないという回答も意外に多く、そのことから考えると、そもそも教師は相談相手としては、思いの他遠い存在である場合も多いのかも知れません。高校生になると逆に、一定の距離感をもっていればこそ、一人の大人である教師に相談できるというように、成長してくるのではないかと推測します。



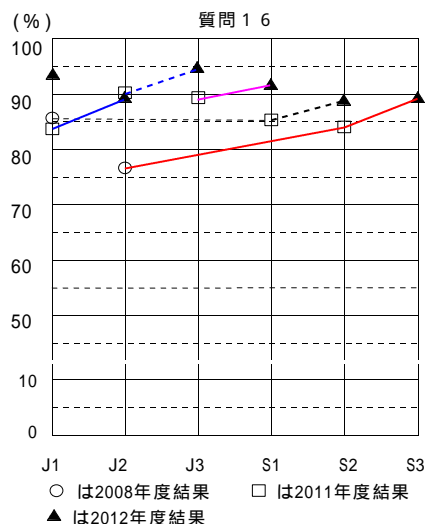
質問 1 4 . 本校の先生は、生徒の悩みの相談によくのって  
 くれていていると思いますか。



質問 1 5 . 本校の先生は、生徒が充実した学校生活を送れるよう心がけて指導していると思いますか。

**(質問 1 6) 「本校のクラブ活動は、活発な方だと思いますか。」**

クラブ活動の成果については、バトン部やスキー部、中学、高校テニス部の全国大会への出場や、吹奏楽部の金賞などの活躍はよく知られていますが、2012年度は、大阪府私立中学校総合体育大会において、大阪女学院中学校が「総合第2位」を受賞しました。これは、すべての運動部の競技成績の総合点によって順位が決まります。すべての運動クラブのがんばりの成果です。それ以外にも多くのクラブが、日々の地道な活動を行い、大阪女学院中高の文化を創造していることを生徒たちは認識しているのでしょう。2012年度の肯定的回答はすべての学年で90%前後の値を示しており、2008年、2011年、2012年と行った調査については上昇を続けています。年々教師は忙しくなり、クラブ活動を続けていく環境は厳しくなる一方ですが、生徒の教育の重要な部分を担う活動です。助け合い、工夫し合って、継続、発展させていくよう努力したいと思います。



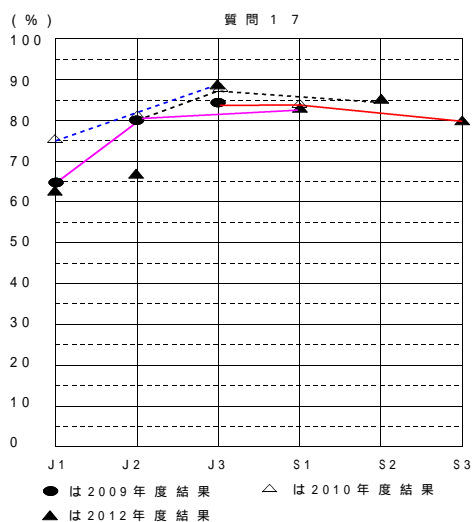
質問 1 6 . 本校のクラブ活動は、活発な方だと思いますか。

**(質問 1 7) 「高校でのコース選択(科目選択)について、自分はよく考えた(考えている)と思いますか。」**

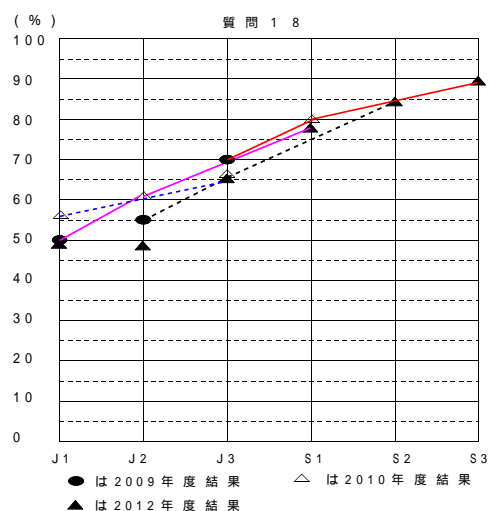
**(質問 1 8) 「高校を卒業したあとの進路について、自分はよく考えた(考えている)と思いますか。」**

という質問については、2009年度・2010年度・2012年度に実施した項目です。

質問 1 7 については、中学 1 年生から 3 年生までは順調に肯定的回答が伸び、中 3 では 8 5 % 前後の生徒が、よく考えて選択したと答えています。しかし、実際に高校に入って振り返ってみると、考えが不十分であったことに気づくのか、高校生の数値は少し下がる傾向にあります。できるだけこの誤差がないように指導をするべく、進路指導について 2 0 1 1 年度には高 1 ・ 2 での進路ガイダンスの機会を増やし、概論的なものから、大学、学部別の具体的なものまで、ガイダンスの持ち方にも工夫を凝らしてきました。さらに 2 0 1 2 年度には、中学 2 年生からスタートするプログラムを導入して、進学や職業意識を啓発し、それぞれの生徒のモチベーションを上げていくように取り組んでいます。



質問 1 7 . 高校でのコース選択(科目選択)について、自分はよく考えた(考えている)と思いますか。



質問 1 8 . 高校を卒業したあとの進路について自分はよく考えた(考えている)と思いますか。

## 学校関係者評価

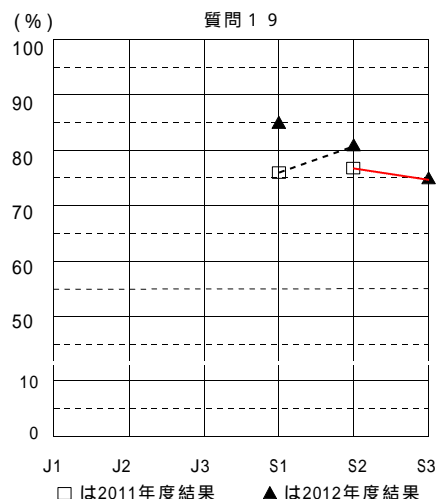
学校を訪れた時に挨拶してくれる生徒の数は年々増えるように思うので、取り組みは確実に成果を上げていると思う。ただ生徒の自己評価を見ると、ルールやマナーを守ること、生活指導上のことについてとても評価が高いが、自分たちのあり方を、客観的に見ることができていないところがあるように思う。教員から報告される現状では、通学途上の生徒の行動に対して学校に注意やクレームが寄せられることもあると聞く。学校に注意が寄せられてはじめて自分たちの至らなさに気づくようではいけない。生徒自身が学校外での自分たちの振る舞いについて考え、その場にふさわしい礼儀、言葉遣い、行動がとれるようにしてもらいたい。

行事や日々の学校生活が楽しいと感じているのは、創立以来の本校の伝統であり、誇りである。一人一人が得意分野でリーダーとなり、友達から認められる喜びを感じている。学校、クラブ、クラスが心の拠り所であり、教師と生徒が近くつながっている実感を持てるのは、今も昔も変わっていない本校のよい校風であると思う。

## 自己評価

### (C)教科学習、国際理解教育による豊かな学力と進路

質問 1 9 . 「本校は毎年交換留学生を受け入れています。留学生が本校で生活することにより、国際理解が深められていると思いますか。」この質問は、高校生のみに対するものです。本校では、Y F Uの年間留学生 1 名、姉妹校からの短期留学生 2 ~ 3 名、Y F Uの韓国からの短期留学生を受け入れています(カナダの提携校との交換留学も 2 0 1 2 年度からスタートしましたが、今年はカナダからの留学希望者はなし)。今年の高校 3 年生については、昨年度、高校 2 年生に迎え入れるはずの年間留学生が、東日本大震災による原発事故の影響を懸念する相手国の方針で来日できなかったことから、留学生との 1 年間にわたる交流の実感が持てず、やや低い回答となっていると思われます。一方、今年は留学生を迎えることができたことに加えて、高校 2 年生の短期留学生との交流がとても充実したものになったことも含めて、高校 1 ・ 2 年からは 8 0 % を超える肯定的回答が得られたものと思われます。



質問 1 9 . 本校は毎年交換留学生を受け入れています。留学生が本校で生活することにより、国際理解が深められていると思いますか。

## 学校関係者評価

交換留学は、本校の大切な教育プログラムである。留学生のホストファミリーが見つからないときなど、同窓生の家庭で受け入れ協力ができればよいと思う。

**授業評価** 今年度もすべての教科についての授業評価を実施をしました。質問項目は質問A～Eの5項目です。

質問A．先生は、年間の授業計画を説明し、計画通り行っていると思いますか。

思う やや思う あまり思わない 思わない

質問B．先生の説明は、はっきりして分かりやすく、テンポよい授業だと思いますか。

思う やや思う あまり思わない 思わない

質問C．先生は、私語に適切(てきせつ)に対処し、クラス全体(分割クラス)の一体感を持たせていると思いますか。

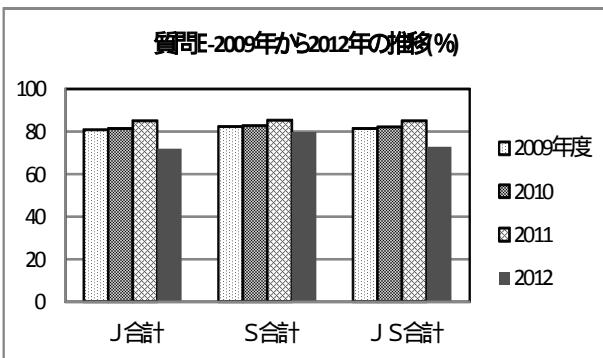
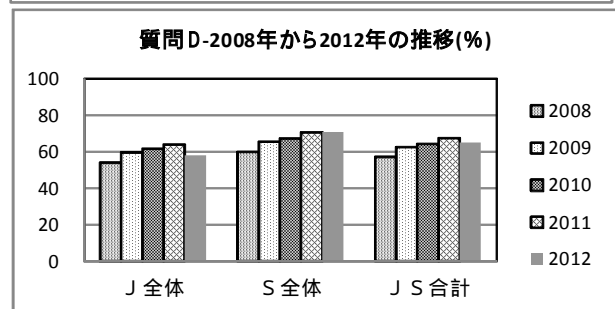
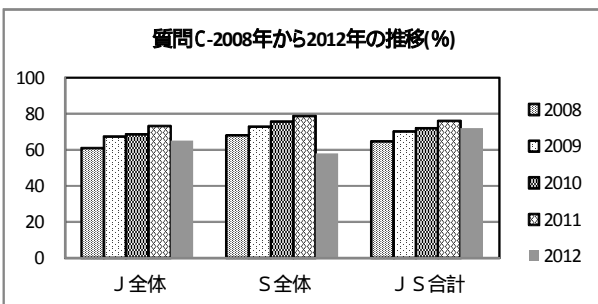
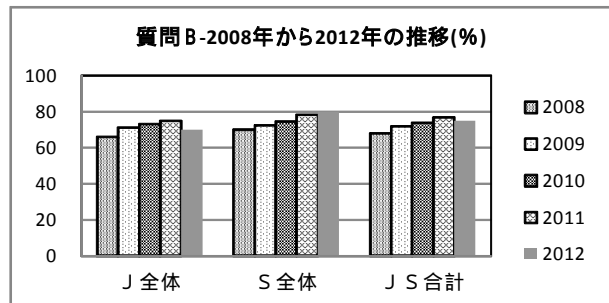
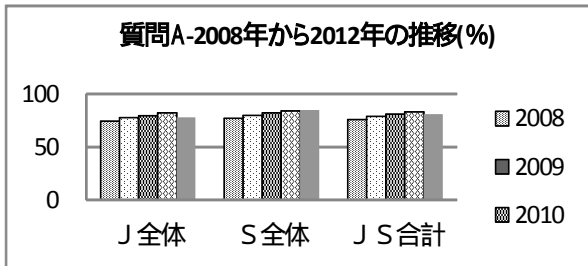
思う やや思う あまり思わない 思わない

質問D．先生の授業を受けて、教科(科目)内容に、より興味を持てるようになったと思いますか。

思う やや思う あまり思わない 思わない

質問E．あなたは先生の授業を集中して受けていますか。

受けている ほぼ受けている あまり受けていない 受けていない



**自己評価** (質問Eは2009年度より実施)

2008年度から、4年連続で肯定的回答率が、わずかず増加していましたが、今年はやや下降気味です。特に質問Cの高校、質問Eの中学の数値が低い結果となっています。質問Cでは、教師側の課題、質問Eでは、生徒側の集中力の課題という形で表れていますが、教師生徒がともに授業を創造していくには、両者のコミュニケーションを含めての努力が、今後一層必要であるといえます。

**学校関係者評価**

昨今、大学入試は夏から様々な形の推薦入試が始まり、秋にはかなりの生徒の進路が決まるため、高3生徒は各々授業に臨むモチベーションにかなり違いが出てくる。互いへの配慮をもって高3の後半が過ごせるように、授業の工夫を含めた指導を希望する。

本校の教育の土台はキリスト教であり、専任教職員が中心となって礼拝はもとより、すべての教育の業の中でその精神を伝えて生徒を育ててきた。今後も保護者、同窓生はその教育を進めていくために理解と支援を行っていききたい。本校は、教員が事の正否を頭ごなしに教え込むのではなく、生徒自身が発想し、行動し、失敗や遠回りを含めて学ぶことを大切にしている学校である。また教職員はキリスト教の精神に立ち、全員でその過程を見守り導くという姿勢を貫いてきた。このような時代だからこそ、この教育の伝統を大切にしていってほしい。